

授業内外の学習を接続する絵本作成(Ⅲ)

—絵本作成と読み聞かせに関する基礎的資料—

野中 陽一郎¹⁾

1) 高知大学教育学部

Development of the picture book connecting in-class learning and out-of class learning (Ⅲ) : Basic materials on constructing and reading picture book

Nonaka Yoichiro¹⁾

1) Kochi University Education Department

要 約

本研究は、授業内外の学習を接続する絵本作成に基づく授業実践より採取した基礎的資料の報告となる。まず、絵本作成を授業外学習に設定する理由について概説した。作成された絵本の特徴は、絵本の題名と表紙という作成絵本の一部および受講生が他者に伝えることを意識した「あらすじ」の2側面から捉えた。受講生が記述する「あらすじ」は、作成絵本の内容だけでなく絵本の効果や使用用途を意識したものもみられた。担当教員は、絵本作成と絵本の活用に鑑み、「あらすじ」を作成する上で受講生に検討して欲しい内容を可視化出来るシートを準備する必要性も示唆された。絵本の読み聞かせは、観点ごとに自己評定と他者評定の数値評定の差異を示した。評定に関する課題や数値評定に関する資料の活用が考察された。自分自身の読み聞かせ映像視聴に基づく受講生の考えは自由記述として示した。当該の基礎的資料に基づき、今後の授業実践に関する考察を行った。

キーワード：絵本作成，授業外学習，読み聞かせの評価

1. 問題と目的

大学教育の単位取得制度に鑑みれば、授業時間とその前後に伴う予習及び復習を総括した学修に必要な時間数が定められている。大学教育に携わる者は、各授業の受講生に対して授業内外の学習も含めた授業を提供する必要があるだろう。無論、全授業に万能な方法があるわけではなく、担当授業の学習内容や受講生の実態、授業目的に応じた工夫を検討していくことが求められる。こうしたことを背景として、大学生が実際に受講する授業(授業内学習)だけでなく、授業外での予習や復習(授業外学習)も踏まえた学びに着目した研究が実施されている。野中(2017)は、保育士資格必須科目において、授業外学習課題に絵本作成を位置づけ、授業内外の学習内容を接続する授業実践を展開している。当該研究では、作成された絵本の特徴が題名や表紙そして主要キャラクターから示されるだけでなく、絵本作成で受講生が苦勞した内容や授業での読み聞かせ実践より見出された課題となるスキルが探索的に示されている。しかし、当該研究は、作成絵本の授業内学習における活用法、読み聞かせスキルの評価観点を定めた省察の欠如といった授業内学習に改善すべき課題がある。

野中(2018)は、野中(2017)を参考に授業外学習課題に絵本作成を位置づけ、授業内学習で絵本を活用した改良版の授業を展開している。当該研究は、作成絵本の特徴に関する検討、読み聞かせ実践、実践場面の映像視聴に基づく自己評定や他者評定を踏まえた省察を報告している。当該研究による作成絵本の特徴は、受講生が絵本を作成する際どのような志向性があったかを示すものといえよう。一方、野中(2018)は、実践場面の映像視聴後に実施した観点別評定に対して、自分の映像も他者の映像も読み聞かせ実践の同一指標として扱ったデータ報告を行っている。すなわち、当該研究は、受講生の読み聞かせスキルの全体的傾向を示すことに主眼を置き、捉え方によっては自己評定および他者評定ともなり得るものを一括した平均値、受講生の特徴を捉える観点別評定データに基づくクラスター分析の結果を示している。現実場面を想定した際、受講生が自分自身の読み聞かせと他者の読み聞かせを同一指標として扱うかは検討の余地が残されている。また、観点別評定に設定した12観点に基づく5段階評定の段階区分は受講生の主観に左右される可能性も指摘出来る。実践場面の映像視聴に対する自己と他者の差異を検討するためには、自己評定と他者評定の枠組みに区分した実質評定結果と記述統計量を示す必要があるだろう。加えて、野中(2018)の授業内学習の省察プロセスは、自己評価と他者評価が暗黙に介在する形式さらには省察により見出された課題も受講生全体の読み聞かせが含意された形式で展開されていた。そのため、自分自身の読み聞かせ映像に基づき自己省察した結果を顕在化することは、今後の授業実践を検討する上で重要といえるだろう。

保育者養成において、実践力を有する保育者養成が求められていることは言うまでもない。前田・加藤・坂田・橋本(2014)は、保育者に最も重要とされる知識・技術・態度が「子ども」を中心に確立され、他の専門職とは異質性を有することを指摘している。そのため、保育者養成では専門職の中でも独自の授業デザインを検討する必要があるといえよう。それでは、保育者養成の授業デザインを検討する際、絵本を取りあげる意義はどのように捉えることが出来るだろうか。山田(2017)は、学生の9割以上が保育実習で絵本の読み聞かせを経験すること、保育を目指す学生に対して絵本の魅力を味わう体験、絵本の知識を得ること、読み聞かせの技術を身につけること、子どもたちと絵本を共に楽しむ感性をもつことといった4観点を育成することの重要性を示している。佐野(2018)は、学生が絵本に対して積極的に関わることや学ぶことに肯定的であること、絵をしっかりと見せながら読むといった基本的な技術については自信を持っているものの絵本に関する知識や絵本の読み聞かせに適した環境構成といった技術について自信がないと答えた割合が高いことを示している。これらの研究は、絵本が実習と関連し、学生の要請の高い学びや課題解決に繋がることを示すだけでなく、保育者養成の授業デザインを絵本に着目し検討することを後押しするものといえよう。

絵本を活用した授業実践は、どのようなことがなされてきたのだろうか。大須賀(2009)は、自己理解を授業目的に位置づけ、授業内でオリジナル絵本の作成を実施している。その結果、絵本作成を介し自分自身の思いをまとめあげる内的体験だけでなく、作成プロセスでの周囲との信頼関係構築にも寄与したことが示された。淡野・内田(2015)は、絵本作成の展開が絵本に親しむ機会を提供すること、絵本作成を授業として展開する可能性があることに鑑み、授業内学習での絵本作成内容、作成した絵本を用いた読み聞かせの演習内容の双方に関する実証報告を行っている。これからの研究は、絵本を活用した授業実践の中で何を目的に設定するかが重要であることを示している。現在、絵本の読み聞かせを向上させる取り組みが、授業内学習において実施されている。南(2009)は、受講生が絵本の読み聞かせの際に重要視している4つの視点を絵本の読み聞かせの評価活動に活用した実践を展開している。吉永・結城・山瀬・廣井(2014)は、保育表現技術である絵本の読み聞かせに焦点を置き、ビデオ映像を踏まえながら省察に利用できる総計10観点からなる自己評価シートを開発している。これらの研究は、授業内での絵本の読み聞かせスキル向上の必要性を示すものといえよう。授業内学習は、担当教員と受講生とが相互交流を通してその場でしかできない学びを充実

させる必要がある。一方、絵本作成を授業外学習課題として設定することは、絵本を媒介に授業内外の学びの接続を円滑にするだけでなく、絵本の読み聞かせスキル向上に寄与するものといえよう。

以上のことから、本研究の目的は、野中(2018)の課題解決を念頭に置き、授業外学習課題に絵本作成を設定した授業実践より採取される基礎的資料を報告することである。基礎的資料の観点としては、作成された絵本の特徴、読み聞かせに関する各観点の自己評定と他者評定、自分自身の読み聞かせの映像視聴より考えた受講生の自由記述内容を設定した。本研究の基礎的資料は、絵本作成に対する学生の志向性、読み聞かせ実践に関する知見だけでなく、授業内外の学習を接続する今後の方策を検討する上で有効となりえるだろう。

2. 方法

1. 受講生

2018年度1学期に開講された保育の心理学を受講した高知大学教育学部幼児教育コース所属2年生の10名であった。

2. 授業外学習¹課題として設定した絵本作成

授業外学習課題として設定した絵本作成は、作成材料を野中(2017)や野中(2018)と同様の工作キットによる「白無地絵本(A4判)」とすること、作成する絵本のテーマを「幼児の好奇心を育む絵本」にするという制約以外、ストーリー構成や各ページの利用、対象幼児の年齢等は自由とした。

3. 絵本に関する授業内学習

1回目の授業は、授業外学習として「絵本」を作成してもらうことを教示した。また、授業外学習の課題は、自分の好きな絵本を回想し、次回までに好きな絵本1冊の内容を調べて発表出来る準備をすることとした。2回目の授業の冒頭では、回想し調べてきた「好きな絵本」を題材に意見交換を行い、更になぜその絵本が好きなのか、絵本の魅力を検討する活動を行った。3回目の授業以降は、授業の冒頭に毎回、受講生の1人が保育士役、他の受講生が幼児役を演じ、模擬場面において著者が選定した1冊の絵本の読み聞かせ活動を実施した。8回目の授業では、作成予定の絵本のねらいや構想をまずペアワークで意見交流を行い、その後全体の前で発表し、他者から意見をもらえる機会を設けた。13回目の授業では、作成絵本の特徴と200字以内で作成した「あらすじ」を発表した上で、作成絵本を再考することを設けた。その後、作成絵本の読み聞かせ実践を行った。個々の読み聞かせ実践後には、必ず別の受講生1名からフィードバックを受けることが出来た。14回目の授業では、13回目を実施した自分自身を含む総計10名の読み聞かせの録画映像を視聴し、野中(2018)と同様に設定した12観点の5段階評定シートによる評定、当該実践に関するアンケート²に回答を求めた。最後に、各グループ5名で絵本作成と読み聞かせに関する意見交換を行った。

3. 結果と考察

1. 作成された絵本の特徴

Table 1は、各受講生が作成した絵本毎に題名、絵本を作成した受講生本人が記述した絵本のあらすじが整理された。なお、各絵本の表紙は、Appendix 1に掲載した。

作成絵本の「あらすじ」は、200字という制約があったが、自分自身が作成した絵本の内容を再考し、整理されたものだと考えられる。本実践の中では、「No 1」や「No 6」及び「No 10」のような人生の移行期や生命の誕生というライフイベントといった発達に関する事象を取り上げたもの、「No 2」や「No 4」及び「No 8」のような食に関する事象を基軸にストーリーが構成されているもの、「No 3」や「No 5」及び「No 9」のような季節に関する事象を取りあげたもののように「あらすじ」から概括した際、同質性がみられたものもあった。「あらすじ」に鑑みれば、絵本の内容伝達だ

Table 1 作成された絵本

作品 No	作成絵本 題名	作成者により記述された絵本のあらすじ
1	1ねんせいになりました	1年生になったさっちゃんやんが、1人で出来るようになることが増えていくお話。1人で起きられるようになったり、髪の毛をくくられるようになったりしていく。しかし、大嫌いな人参だけが出来ずに涙が出る。そこでお母さんが人参をさっちゃんやんが大好きなさぎの形に型抜きをしてくれる。するとさっちゃんやんは人参を食べることができた。また今月も1つ出来ることが増え、次は何が出来るのかなという形で終わる。
2	おべんとう	トマト、ウインナー、ブロッコリー、煮込みハンバーグ、卵焼きが調理されて、おべんとうが完成する。そして、ママと男の子がおべんとうをもつて、一緒にピクニックに行く。
3	さくらのはなびら	毎年、さくらの花びらは必ず散っていく。その散った花びらはいつの間にか地面からも消えていく。どこにいったら何をしているのか、気になる幼児も多いのではないだろうか。そんな気持ちに着目して考えた絵本である。満開なきれいなさくらだけでなく、散ったさくらにも注目する、自然の道理にも触れることが出来る。
4	あるひのゆうごはん	双子のくまの姉が妹に1口ごはんをすくって食べさせてあげるところで思いやりが感じられる話。おなかがいよいよお母さんに御飯を食べさせてもらおうと双子のくまが座っていた。しかし2人の兄にもごはんを食べてもらわないといけないので、お母さんは台所にいったりきたりしていた。お母さんが兄にごはんを食べさせるのを見て、双子の姉が真似をして、自分のご飯を妹に食べさせた。すると母は同じように姉に食べさせた。
5	あめのひのおでかけ	カエルのケロちゃんやんは雨の日が大好きで、家の中から退屈そうに外をながめていた。するとそこに雨がふってきてケロちゃんやんは外にさんぽに行くことにする。雨の日には、まず水たまり、カタツムリの親子との出会い、キラキラ光るあじさい、最後には大さき虹、と雨の日の素晴らしさ、楽しさが伝わるようにした絵本
6	おねえちゃんだから	弟が産まれ、お姉ちゃんになった女の子がお母さんと少しでも楽しんであげようとお手伝いをがんばる物語。洗濯物をたたんだり、嫌いなものを食ったり、おつかいに行ったりというろんなことに挑戦する。この女の子を突き動かすのは「お姉ちゃんだから」という言葉。でも本当は私も甘えたいという思いもあり、最後にちやんとお母さんが甘えさせてくれるお話。
7	ママ、あきちゃんママやめる	あきちゃんという1人の女の子がママと喧嘩をしたことでも思ってもいないことをママに言う。その言葉にショックを受けたママが家を出ていってしまう。初めは、あきちゃんもママがいけない時間を楽しんでいたが、次第に寂しさや孤独を感じてしまう。ママがいけないという環境にあきちゃんやんが限界を感じたその時にママが帰ってくる。ママの大切さを改めて感じたあきちゃんやんが改心する。
8	やさしい王国のふたり	やさしい王国に住むトマトのトマ美とピーマンのピーくんがなすび王に呼ばれて人間の世界へ行くことを許可されるがふたりはあまり乗り気ではない。人間にあまり好かれていないと思っていたからだ。しかし、他の果物たちに協力をしてもらい、とてもおいしいトマトとピーマンになり自信をつけて人間の世界へ旅立っていく話。
9	あめのひのぼうけん	雨の日以外で遊べない落ち込んでいた女の子に、お母さんがレインコートと長ぐつをプレゼントする。嬉しそうに外に飛び出した女の子だが、何をして遊べばいいかわからず戸惑う。しかし、雨の日ならではの生き物などを見つけて雨の日を楽しむお話。私は命を授かって、お母さんのおなかの中で10カ月（春夏秋冬）をすごして生まれてきます。子育てで忙しくいらしてしまったり、疲れ切ってしまったりしているお母さん、子どもに読み聞かせをしながら振り返ってください。この子がお腹の中にいると分かったときの喜び、生まれてくるのを待ち遠しくしていた10ヶ月、やつと会えたあの瞬間。お母さんがふつと息をつけるものであればと思います。大切にしてくれてありがとう。

けでなく、受講生が絵本の効果をどう想定しているのかあるいは当該絵本を実際の保育のどのような場面で活用したいと考えているのかまで踏み込んだ記述も見られた。一方、200字という制約は、「あらすじ」に関する記述量に差異を生じさせた。無論、記述量の多寡が重要なわけではないが、「あらすじ」を介して自分自身の作成した絵本を再考する際の量と質を向上させる方策を検討することが求められる。すなわち、絵本作成と絵本の活用に鑑み、「あらすじ」を作成する上で受講生に熟考して欲しい内容を授業構想時より検討し、担当教員は当該の内容を受講生が厳格に可視化出来るシートを準備する必要もある。作成された絵本の中では人間以外の「生き物」が登場する作品において、擬人化表現されたキャラクターも登場していた。キャラクターの擬人化表現は、本研究だけでなく、淡野・内田(2015)、野中(2017)や野中(2018)でも確認されている。一方、本研究で作成された絵本の中には、擬人化表現を行わなかった作品もみられた。今後、絵本を作成する上でキャラクターを擬人化表現するかどうかの作成者の意思決定プロセスを検討していく必要があるだろう。

2. 読み聞かせ場面に関する録画映像視聴の自己評定と他者評定

各受講生は、絵本の読み聞かせ場面に関する録画映像を視聴し、読み聞かせ事例ごとに野中(2018)と同様の12観点を備えた5段階評定シートによる評定を行った。本研究は、評定結果に基づき、各観点を自己評定と他者評定に区分した実質評定結果と記述統計量を示した(Table 2A Table 2B)。

Table 2は、自己評定と他者評定が異なること、概ね他者評定が自己評定よりも高いこと、自己評定が著しく低い受講生がいることといった大きく3つの視点を顕在化した。この結果は、5段階評定シートの課題ともいえる。そのため、各段階の評定を誰が見ても厳格に判別できる具体的記述、観点別ルーブリック作成が必要となる。自己評定が著しく低い受講生には認知の歪みを解消する方策が求められる。両評定とも相対的に低い観点は、当該受講生に育成が求められるものといえよう。

3. 自分自身の絵本の読み聞かせ映像視聴に基づく自由記述

受講生の自由記述は、Appendix 2に掲載した。当該知見は、各受講生自身が課題と捉えた視点に基づき自分の考えを顕在化したものといえよう。自分自身での課題抽出と明確化は重要である。一

Table 2A 読み聞かせ自己評定と他者評定〔他者は、9名の平均値と()に標準偏差を表わす〕

No	評定 得点	表紙の絵の 見せ方	絵の 見せ方	ページの めくり方	絵本の 持ち方	表情	姿勢
1	自己	2.00	3.00	3.00	4.00	2.00	2.00
	他者	4.33 (0.67)	4.11 (0.74)	4.33 (0.67)	4.78 (0.42)	3.56 (0.68)	3.44 (0.68)
2	自己	3.00	4.00	4.00	4.00	3.00	3.00
	他者	4.11 (0.87)	4.22 (0.79)	4.56 (0.50)	4.56 (0.68)	5.00 (0.00)	4.00 (0.82)
3	自己	5.00	4.00	4.00	2.00	3.00	2.00
	他者	4.67 (0.47)	4.22 (0.79)	3.89 (0.99)	3.44 (0.83)	3.67 (0.82)	3.78 (0.63)
4	自己	3.00	3.00	2.00	4.00	3.00	3.00
	他者	3.67 (0.47)	4.11 (0.57)	3.56 (0.68)	4.22 (0.79)	3.78 (0.79)	4.11 (0.57)
5	自己	3.00	3.00	3.00	3.00	2.00	3.00
	他者	4.22 (0.79)	4.11 (0.74)	3.33 (1.05)	3.00 (0.94)	3.44 (0.83)	3.78 (0.79)
6	自己	2.00	3.00	4.00	3.00	3.00	3.00
	他者	4.11 (0.74)	4.00 (0.67)	4.00 (0.82)	4.56 (0.50)	3.44 (0.50)	4.11 (0.74)
7	自己	2.00	3.00	4.00	4.00	2.00	3.00
	他者	3.89 (0.99)	3.89 (0.74)	4.22 (0.63)	4.11 (0.31)	4.00 (0.94)	4.11 (0.74)
8	自己	3.00	4.00	3.00	4.00	5.00	4.00
	他者	3.67 (0.82)	3.89 (0.74)	4.11 (0.87)	3.89 (0.74)	3.22 (0.79)	3.33 (0.82)
9	自己	3.00	4.00	3.00	3.00	2.00	2.00
	他者	4.11 (0.74)	4.22 (0.63)	3.89 (1.10)	3.89 (0.87)	3.22 (0.63)	4.11 (0.74)
10	自己	1.00	2.00	2.00	3.00	1.00	1.00
	他者	3.67 (0.67)	4.22 (0.63)	4.56 (0.50)	3.89 (0.74)	4.00 (0.82)	4.00 (0.82)

Table 2B 読み聞かせ自己評定と他者評定〔他者は、9名の平均値と()に標準偏差を表わす〕

No	評定 得点	声の 大きさ	声の 明瞭さ	読む スピード	間の 取り方	感情の こめ方	余韻
1	自己	4.00	4.00	3.00	3.00	4.00	2.00
	他者	3.67 (0.67)	3.56 (0.83)	4.33 (0.47)	4.33 (0.94)	3.89 (0.74)	3.56 (0.68)
2	自己	4.00	3.00	4.00	4.00	3.00	4.00
	他者	4.89 (0.31)	4.89 (0.31)	4.89 (0.31)	4.67 (0.47)	4.56 (0.68)	4.33 (0.67)
3	自己	3.00	4.00	4.00	4.00	3.00	4.00
	他者	4.00 (0.67)	3.89 (0.57)	4.22 (0.63)	4.22 (0.79)	4.33 (0.47)	4.56 (0.68)
4	自己	4.00	4.00	2.00	2.00	3.00	1.00
	他者	4.22 (0.63)	4.22 (0.92)	3.00 (0.67)	2.89 (0.57)	3.33 (0.67)	3.00 (0.67)
5	自己	2.00	3.00	2.00	2.00	3.00	2.00
	他者	3.78 (0.79)	3.78 (0.63)	3.78 (0.92)	3.44 (0.68)	3.11 (0.74)	3.33 (0.82)
6	自己	3.00	3.00	4.00	4.00	3.00	3.00
	他者	3.89 (0.57)	4.11 (0.74)	4.11 (0.57)	3.89 (0.57)	3.89 (0.31)	3.78 (0.79)
7	自己	4.00	4.00	3.00	2.00	4.00	4.00
	他者	4.67 (0.47)	4.67 (0.67)	4.33 (0.67)	4.33 (0.67)	4.78 (0.42)	4.11 (0.74)
8	自己	4.00	4.00	5.00	5.00	4.00	4.00
	他者	3.78 (0.79)	3.78 (0.79)	3.89 (0.57)	4.00 (0.67)	3.33 (0.47)	3.56 (0.83)
9	自己	4.00	3.00	2.00	2.00	3.00	2.00
	他者	3.67 (0.82)	3.67 (0.67)	4.11 (0.74)	4.00 (0.82)	3.67 (0.82)	3.33 (0.94)
10	自己	4.00	2.00	3.00	3.00	2.00	1.00
	他者	4.56 (0.68)	4.67 (0.47)	4.78 (0.42)	4.44 (0.50)	4.11 (0.57)	4.11 (0.74)

方、「あらすじ」と関連する事項でもあるが、授業デザインは、受講生自身の自己裁量部分だけでなく授業担当者が焦点を置くべき部分の双方より多角的な省察が出来る枠組みも必要となるだろう。

4. 総合的考察

本研究は、授業内外の学習を接続する絵本作成に基づく授業実践より採取した基礎的資料を報告した。当該基礎的資料に基づき、授業担当者の本来の役割に立ち戻り、保育者を目指す受講生の学びや実践力向上に寄与する授業内外を接続する授業デザインと実践の更なる展開が重要といえよう。

註

- 1 紙幅の都合から、授業外学習や授業内学習の中でも絵本に関連する内容のみを記載している。
- 2 「自分自身の絵本の読み聞かせ映像を視聴し、どのようなことを考えましたか。貴方自身が感じたことや今後向上させたいこと等を自由に記述してください」に対する自由記述の報告を行う。

引用文献

- 前田麦穂・加藤靖子・坂田真啓・橋本鉦市(2014). 専門職養成における能力形成の認識構造—6種の専門職の養成機関長への質問紙調査から— 東京大学大学院教育学研究科紀要, 54, 133-149.
- 南 元子(2009). 小学校教員・保育者養成校における絵本の位置 愛知教育大学幼児教育研究, 14, 55-60.
- 野中陽一朗(2017). 授業内外の学習を接続する絵本作成—保育の心理学での実践を参照しながら— 高知大学教育実践研究, 31, 169-176.
- 野中陽一朗(2018). 授業内外の学習を接続する絵本作成(II)—絵本作成と読み聞かせの実践を参照しながら— 高知大学学校教育研究, 1, 139-146.
- 大須賀隆子(2009). 絵本作りを通じた自己理解—保育者養成校の学生から実習園の子どもたちへ— 幼児の教育, 108, 38-43.

佐野友恵(2018). 保育者志望学生の絵本体験に関する研究 教育学研究論集, 13, 17-24.
 淡野将太・内田 裕(2015). 保育学教育としての絵本作成 島根大学教育臨床総合研究, 14, 167-179.
 山田秀江(2017). 「絵本の読み聞かせ」に関する一考察—学生の読み聞かせ体験の実態調査より—
 四條畷学園短期大学紀要, 50, 38-47.
 吉永安里・結城孝治・山瀬範子・廣井雄一(2014). 保育表現技術の自己教育プログラム構築—絵本の
 読み聞かせの技能向上を目指して— 國學院大學人間開発学研究, 6, 111-120.

付記及び謝辞

本研究は、2018年度1学期に開講された保育の心理学で実施された内容について本年度考察した。真剣に授業に取り組んだ10名の受講生に甚深の感謝の念を表す。本研究は、JSPS 科研費 19K14318の助成を受け実施した1部である。

Appendix 1 受講生の作成した絵本表紙一覧

(一部加工した部分は、名前を記載した受講生の実名記載を倫理的視点から避けるためである。)
 (全絵本の裏表紙に絵の記載があったが、No.3「さくらのはなびら」のみ表紙と裏表紙を合わせて結末を表わす仕掛け絵本となっていたため No.3のみ両方掲載した。)



Appendix 2 受講生の自由記述内容

No	記述内容
1	自分はもう少しゆっくり読んでいるつもりだったけど、思ったより早く読んでいた。もう少し間をおきたいなと思うところも結構せかせかしてしまっていた。もっとゆとりをもって読みたかった。自分が思うより気持ちゆっくり読むのが良いのかなと。また、みんなの方を全然見れていなかったの、見れるくらいの余裕をもちたい。主人公の気持ちと同じ表情をしつつ、みんなの方を見れたらもっと素敵だなと思う。もっといっぱい練習が必要であると感じた。
2	自分は、絵本の読み聞かせが得意だと思っている。しかし、今回私が作成した乳児向けの絵本は、私は読み聞かせることが苦手だということに気づいた。私は感情をこめて読むのが得意なため、乳児用のストーリー性の少ないものは、感情を込めることが出来ず、単調になってしまう。そのため、ストーリー性の少ない本でも抑揚をつけて読み聞かせる力をつけなければならない。
3	今回の絵本はやさしくゆっくり読む感じの絵本だったので、声のトーンやスピードは自分的にはよく読めたかなと思うが、絵本のストーリーやテーマによって大きさ、スピードをその絵本に合わせて読むことで幼児の頭の中にスッと話が入ってくるのではないかと考えた。
4	読むスピードがはやかったり、文字が少ないのが影響してめくるのがはやかった。絵が見開きで1つになっているので、ゆっくりめくってもっと絵を見せられたら良かったと思った。最後のページの言葉は、特に子どもたちに対して呼びかけるような読み方の方がよかった。絵を見せることを意識したり、感情をこめて子どもたち自身に語りかけるような読み方ではないなと思ったので、それを今後意識してやっていきたい。また表情を使って表現したり間のとり方も意識したい。
5	客観的に自分を見ると、思っていたよりも感情がこもっていないことに気づいた。セリフのところは声色を変えて読むなどするべきだと思った。全部が一本調子で聞いてて長いなと感じてしまった。1ページ1ページに変化をつけていけたらいいなと思った。
6	読んでいる時は、普通のスピードで読んでいると思っていても、映像で見ると早く感じた。もう少しゆっくりめに読もうと思う。また、ページをめくる時に絵本がふらふらして安定していないので、安定させたままめくれるようにしたい。また、「」の部分、会話の部分もっと工夫して感情をこめたり、間の取り方を考えたりして読めたらいいなと思った。
7	子どもたちの顔を見ることは意識していたけれど表情が思ったよりかたく、表情も大切だと思った。間の取り方や感情のこめ方が微妙だったので自分ではオーバーだと思うくらいにやるのが聞く側としては丁度良いと感じた。全体を通して「思ったより」と思うことが多かった。自分の読み聞かせを見ることになかったし、内容を知ったうえで評価することを目的に他に人を見ることも少なかったの、姿勢や表情のようなあまり気づかないけど意識すると全然違って見える分野を見直すことができた。他の人の読み聞かせと自分のを比べて真似したいところやこれはしてはいけないと思うこともたくさん見つかった。
8	他の皆の絵本の読み聞かせは何度も聞いたことがあったけど自分自身の読み聞かせを初めて聞いてみてこんな風いきこえるんだというのを知れました。感情をのせようとおちこんだりする場面で声が引込んでしまう癖があると感じたのでそこを直したいと思いました。逆にちゃんと言葉に抑揚をつけられていると感じたのでそこは自信をもちたいと思いました。あと、自分で付けたキャラクターの名前を笑ってしまったのはダメでした。手元がブレてしまうこともあったので固定の仕方を研究したいと思いました。
9	自分の中でストーリーに合わせて声を変えているつもりだったけど聞いてみたら、伝わりにくかった。声の大きさ、高低さ、トーンなどをもっと変えられるようになりたい。ページのめくり方、読む早さをもう少し意識したい。登場人物の感情にあった表情が出来るように意識したい。読み方がたんたんとしていたように感じた。
10	キーワードとなる言葉とその他の文章と違いをつけなければならないのだけれども、かけはなれすぎていてもいけないと感じた。パット目に入る様子の重要性に気づき、もっと表紙に手をかけるべきだなと思った。一番メインで見て欲しい所のページの開き方は、バツとひらくのか、ぐわっとか、そっとか内容によって異なるけどすごく大切だなと思った。

追記事項 1：Appendix 2 に掲載した自由記述は、各文章を単語水準に分割し、各単語の出現頻度や相関関係を介して有益な情報を抽出するテキストマイニングの実施も検討出来る。抽出情報は、絵本の読み聞かせが受講生に及ぼす影響を顕在化したものの一部ともいえるだろう。

追記事項 2：Table 1 と Table 2 そして Appendix 2 で記述された「No」は本実践における同一受講生を示すものである。そのため、本研究で報告した基礎的資料は、研究目的に応じて再分析が出来る資源ともなりえる。

追記事項 3：本誌の投稿要領に明示された「主として教育実践にかかわる論文および報告」に鑑みれば、本研究は、絵本作成を授業外学習課題として設定した上で授業内外の学びの接続を具現化した教育実践の報告ともいえる。